

もうキミは、立派な可愛い女の子

「メイドのお姉さん」から強制女体化させられ、汚されちゃったボク

第1章 秘密の地下室にて

【マリー】

おはよう、お目覚め？

お坊ちやま、やっと気がついたみたいね。

ベッドに寝たまま、目をきよろきよろさせて…

今、自分がどういう状況に置かれているのか、まだ理解が追いついていないようね。

ふふ、動かない方が身のためよ。

動くと、キミの手足を縛っている鎖が、綺麗な肌に食い込んでしまうわ

そう、キミは今、手足を縛られて、

私の前に無様な姿を晒しているの。

生まれたときから何の不自由もなく、

裕福に育ったキミが、こうやって手足を縛られて、体の自由を奪われるなんて、自分でも想像しなかったでしょう？

ふふっ。これから、キミの体にもっとたくさんの初めてを教えてあげる。

楽しみにしていなさい。

【マリー】

…ところで、私のことは知っているわよね。

キミの世話役を勤めているメイドの、マリーよ。

毎日顔をあわせているから、当然よね。

…それにしても。座りこんで、近くで見ると
キミ、女の子みたいね。

まだ幼い顔だけど…今日はキミのお誕生日。また一つ、年を重ねたのよ。

ふふ…キミが主役のパーティ、楽しかった？

途中から急に瞼が重くなって…そこからは覚えていないでしょう？

キミは私の仕込んだ、睡眠薬入りのジュースを飲んで、
ぐっすり眠ってしまったの。

そして。

私の手で、この地下室に連れて来られたのよ。

あら、お屋敷にこんな部屋があるなんて、知らなかった？

ここは昔、旦那様、つまりキミのお父様も使っていた、秘密の地下室よ。

今は旦那様も、たいそうな身分で忙しいのか、
この部屋のことを忘れているかもしれないけど。

以前はここで、使用人をお仕置きしたり、犯したりとやりたい放題だったの。

私も随分な目にあわされたわ…。

だから今日は、キミがひどい目に遭う番。その為にずっと目を付けていたのよ。

綺麗な肌に、華奢な体つき、瞳もつぶらで、大きいし。
女の子にしたら、どんなに可愛いんでしょう、ってね。

…そうね、キミは男の子なのに、
女の子になるわけなんて、ないと思うのが普通よね。

—でも、世の中には男を女に変える、魔法の薬があるのよ。

ほら、私を見てみなさい。

洋服ごしにでも分かるほどの
大きく張った乳房に、真っ白な肌

お尻だって、むっちりと大きくて、
いやらしいわよね。

スカートを少しまくりあげれば、
艶めかしい太ももが、どんな男でも虜にしてしまう。

思わず奮いつきたくなるようなこの容姿は、
どう見ても女のものでしょうか？

でもね、私はもともとキミと同じ性別、男だったのよ。
…ただ、完全な女ではないの。

ほら、見てごらんなさい。

私のスカートを突きあげている立派な男の証を。

どう、分かるかしら。

スカートごしにでも目立ってしまう、この逞しいおちんちん。

キミも女の子に変えて、この私のペニスで、
いっぱい可愛がってあげるわね。

ふふ…そんなに震えちゃって、私が怖いのか？
…大丈夫よ、いきなり犯したりなんてしないわ。

まずは、キスから、経験してみるか？

この、色っぽい唇の…蕩けるような感触
味わってみたいと思わない？

思うでしょう？

だって…私が近づいたら、唇に、目が釘付けになってる

ほら…視線、離せないでしょう？

このまま、どんどん近く…甘い吐息まで感じられる距離になって…

…ん、ちゅっ

まずは、頬っぺたから

どう？ 私の唇…柔らかかった？

こんな美女とキスできるなんて、幸せね…

ふふ、可愛いお顔、リンゴみたいに真っ赤ね

もう一度…してあげるわね

言っておくけど、逃げようとしてもダメ。

忘れたの？ 今のキミに、自由なんてないのよ。

私の唇から、逃れることはできない。

ほら、また顔が近づいて…熱い吐息が掛かる…

ふふ、私のものになりなさい。

キミの初めて、ファーストキスも、その先も…全部、奪ってあげるわ

んう…ちゅう、はぁ…ちゅっ、ちゅう、んう…

れろお…んちゅっ、れろちゅっ、ちゅれ、れろろお…

ん…はぁ、私の唾液も、いっぱい流しこんであげる。

んちゅッ、ちゅば、ちゅばッ、んふううッ…れろお…

ちゅばぁ…。ふふ…飲み込んだわね

今、私に口移しされて、喉の奥に入ってしまったのが、
女の子になってしまう魔法の薬よ。

しまった、って顔ね。

でも、もう遅いわ。

これからキミの体は、少しずつ女の子に変わっていくの。

もう、誰にも止められないのよ

諦めて、女の子になっていく自分の姿を、受け入れることね…んふふッ

●第二章 目隠しリップサービス

【マリー】

どうかしら、薬の効き目は。

だんだんと体が熱くなってきたでしょう？

キミの細胞ひとつひとつが、女の子になる準備を進めているのよ。

この手も、足も、まだ平らな胸や、肉付きの薄いお尻…
そして―おちんちんもね。

勃起して、男を主張しているように見えるけど、
最後のあがきをしているのよ。

男の子として、最後の勃起を、存分に楽しみなさい。

ん？ 信じられない？

なら、その身体に直接教えてあげる…

こうして、内腿のあたりを撫でると…

今、ビクッとしたわね

肌のどの部分を触られても、

感じやすくなっているのが分かるかしら。

これも、性転換の薬が効いている証拠よ。

次は…そうね、目隠しをしてあげる

こうやって、キミの目を布で覆って、

頭の後ろで縛ってしまえば―。

もう真っ暗。

何も見えない分、他の感覚が敏感になるの

んふふ、お腹のところ、くすぐったかった？

目隠しをしたら、どこを触られるか、わからなくなっちゃうわよね。

【マリ】

うーん…次はどの部分を責めてあげようかしらあ、ちなみに、おちんちん以外のところよ。そこを触ったら、感じるのは当たり前よね。だから、キミのおちんちんはお預け。

まず……

んう……れろお

そう。左耳から、責めてあげる

ん……れろ、れるう……はあ、耳の外側から、舌を這わせて、
れろ、んちゅつ、れるろお……
ちゅ、れるろ、れろ、ちゅ……れるお、れるろ、んちゅう……

はあ……だんだん、耳の穴のほうへ……

んちゅ、れるろ、れる、ぴちや、れるう……んう
ちゅれ、れるう……れろ、ちゅつ、ちゅばあ……
んん……れるろ、れるろ、れるう……

穴の奥まで……ちゅばあ、んれろ、れるう……私の唾液が、沁み込むように……

んちゅ、れるろ、れるちゅつ、ちゅれるお……
れるろ、れるちゅつ、ちゅれるお……つ、はあ……んれる、れるお……

ん
ん
う
…
ふ
う
う
つ

ふふ、息を掛けられるの、気持ち良かった？

なら、次は少し強く、ふうふうふうつ。

んふふ、下半身をビクつかせて、そんなに耳がいいの？
あどけない顔のくせに、ド変態ね。

今から女の子になるのに、耳で感じちゃうなんて…そんなにはしたなくて、いいのかしら？
ねえ、なんとか言いなさい。

ふーん、だんまりなのね。
じゃあ……

んれろお……はあ、今度はこっちの耳よ

んちゅ、れるろ、れる、ぴちや、れるう……んう
ちゅれ、れるう……れろ、ちゅつ、ちゅばあ……

んんう……れるろ、れるろ、れるう……耳の中まで舐めしやぶって、犯してあげる

はあ…ん、ふう……つ。

【マリー】

くすっ、耳を責められただけで、ガマン汁までお漏らしして、
情けないわねえ

でも、メスになる男の子なんてそんなものよ

どこを触られても快感を覚えてしまう、淫らな身体……

キミの全身が、メスになってきている証拠よ
どうしようもなく淫乱で、すぐにお股を濡らしちゃう……ビッチなメスにね。

次は……身体の変化が分かり易いところ……女の子らしい部分を、責めちやおうかしら

ここ……とか。ん、れろお……ふふ

そう、左の乳首よ。

まずは根元から先っぽに向かって、舐めてあげる。

ちゅ、れろ、れろろっ。

ちゅ、れろ、れろろろっ。

あら、体が震えてるわよ。

まだ男の子なのに、胸の先、敏感になっているわねえ…

れろ、れる、んちゅ、れろおっ。

あーあ、左の乳首だけ勃起してきたわね。ぷっくり膨らんで…いやらしい形。

そのまま、ちゅばちゅば吸ってあげる。

んちゅ、ちゅっ、ちゅううっ

ちゅばっ、ちゅぢゅっ、んちゅう…はあ

声も出しちゃって、はしたないわね。

もっと…感じさせてあげる。

んちゅ、ちゅば、ちゅれ、れるちゅっ、ん、ちゅぢゅうっ

はあ…大きな声を出したかったら、我慢しないでいいのよ

私しか聞いていないんだから、女の子みたいな声、出しちゃいなさい

ほら…右の乳首も…

ちゅ、れろ、れろろっ。

れるちゅっ、んれ、れろ、れろろおっ

ん…ちゅっ、ちゅう、ちゅっ、ちゅぢゅう、んれる、れるろお…

はあ…よかったじゃない。左の乳首だけじゃなくて

右の乳首も仲良く勃起してるわよ。

んちゅ、ちゅっ、れろちゅっ、んれろ、れるろ、れるう…。

はあ…乳首舐められて、気持ち良いでしょう？
もっと…舐めてほしい？

んー、どうしようかしら。そろそろ舐めるのも疲れてきたし…

ん？ どうしたの？

もしかして、乳首を舐められるの、気に入っちゃった？

へえ…男なのに、女の子みたいに、おっぱい責めて欲しいのね？

んふふ、良いわよ。

でもね、私からは何も言わないから、

キミから素直におねだりするのよ。

淫らなメスの男の子らしく、おちんちんを勃起させながら、
私の唇をはしたなく求めなさい。

キスで、乳首を、いっぱい、いじめてください、って。

さ、キミの口で言うのよ。

【マリー】

んふふふ、よく言えたわね、いい子よ。

もう心は立派な女の子ね。

ご褒美に右の乳首をもっと舐めて、吸ってあげる。

ちゅ、れろ、れろろお。

んちゅ、れろ、んれる、れるろお…んれろ、ぴちや、んれる、れろお…

はあ…乳首可愛がられて、すっかり蕩けた顔ね…

でも、忘れていないでしょう？

この快楽は、女の子のものなのよ

舌が触れるたび、胸の先っぽが、びりびり痺れて…感じちゃう

こんなふうに…ね、んれろ、んちゅっ、れる、れるろ、れるろ…

はあ…憶えておきなさい。これはね、復讐なのよ

【マリー】

キミのお父様に目を付けられて、

私は、不完全だった薬のせいで、こんな身体にされたの…

女らしい肉付きになって、胸もお尻も膨らんだのに…おちんちんだけは、このまま

ほら、キミの乳首を味わって、私のアソコ、勃起しているのよ…

んちゅ、ちゅっ、ちゅろ、れるちゅ…んちゅっ、ちゅろ、れるろ、れるろ…

ちゅばっ、れるろ、れるろ、んれろ、ぴちや、んれろ…

はあ…おかしいでしょう？

いびつな私の身体は、キミのお父様に弄ばれ、おもちゃにされて……

捨てられた。

だからね、こうしてキミにも、女の子の快楽を教えてあげるの…ん、れろろ、れるろ…

はあ…んちゅっ、ちゅばっ、れるちゅっ、ちゅろお…はあ

【マリー】

理不尽だと思う？ そうね、でも恨むのなら、まず自分のお父様を恨みなさい

キミのために、新しいメイド…この私を雇ってしまった、間抜けなあゝの男を…んふふ

んれろ、れるろ、れるろ…ちゅ、れろ、れろろお。

んちゅ、れろ、んれろ、れるろお…んれろ、ぴちや、んれろ、れろお…

はあ…最後は、右の乳首も…

んちゅ、ちゅっ、れるろ、んれる、ぴちゃ、んれるお…

はぁ…乳首の感度は、もう充分のようね

【マリー】

今まで、おっぱいの先なんて意識もしていなかったでしょうけど…

これからは、乳首の快感が、頭から離れないわよ

少し擦れただけで、甲高い、女の声を上げちゃうかも…んふふ

…でも、まだ全然足りないわ

今度は…そうねえ、お尻とか、どうかしら

ん？ 意味が分からない？ お尻の穴っていうのはね、意外と気持ち良いのよ

おちんちんで奥の方を刺激されたり、掻き回されたりするとね…もっと、女の子の気持ち
が理解できると思うわ

【マリー】

そうね、それがいい

キミのお尻の処女を奪って、メスイキの快楽を教えてあげる

後戻りなんてできないって、その身体で知りなさい

●第三章 アナルセックスで女性化促進

【マリー】

キミのお尻を責めるには、この鎖が邪魔ね

まあ、薬の影響で力が出ないし、仕方ないわね、拘束だけは解いてあげる

ただ、目隠しはつけたままよ。

さあ、四つんばいになって、お尻をこっちに向けなさい

：どうしたの？ 目隠しされていても、声が聞こえていれば、私がどこに立っているのか、分かるわよね

見え透いた嘘なんてについても無駄よ。ほら、早くしなさい。

それとも、今からキミのお尻の処女を、無理やり奪っても良いのよ？

：そうよ、良くできました。

まるで犬みたいな恰好ね。とっても無様でお似合いよ。

ふふ、どうやら、まだ躊躇いが残っているようだけど、体は正直。

お尻の孔がひくついて、私のおちんちんを欲しがっているわね。

ここにぶっといものを突きこまれて、めちやくちやにかき回されるのよ。

【マリー】

内臓が裏返りそうな感覚と一緒に、女の快樂が、

キミを天国に連れていってくれるわ。

ほら、突きだされたお尻を、

こーやってすーりすり、すーりすりと撫でるだけで、

感じて、お尻を震わせちゃうんでしょ。

左の尻たぶを

すーりすり、すーりすり。

すーりすり、すーりすり。

右の尻たぶを

す〜りすり、す〜りすり。

す〜りすり、す〜りすり。

んふふ、次はいよいよ、アナルを犯してあげる。

【マリー】

まずは人差し指を、ゆっくりと潜りこませて行くわよ。

第一関節、第二関節、どんどん入っていく。

んんんっ、最後までしっかりと飲みこんじゃったわね。

キミのお尻、私の指をはしたなく、くわえこんじゃって、
どうしようもないわね。

そのまま指を出していくわよ、

ゆっくりと指先が抜けて、感じちゃうでしょ。

入れて、出して、入れて、出して。

入れたときの圧迫感と、出て行くときの開放感、
どちらもたまらないでしょう。

気持ちよかったら、声を出していいのよ。

入れて、出して。

入れて、出して。

キミは、もうお尻で感じてしまう、
淫らな身体になってしまったのよ。

【マリー】

それに…体つきも、だんだん変わってきているわ。

目隠しでわからないでしょうから、

私が撫でて、教えてあげる。

乳房も少しずつ膨らんできて、

私が揉んであげることもできる大きさよ。

ほら、まずは左の胸から感じなさい

乳首も立って、気持ち良くなってるでしょ。

根元から先っぽへ、搾るように揉んであげる。

ふふ、身を振じらせて、気持ち良くなっているのね。

次は右の胸も揉んでいくわ。

同じように、根元から先っぽへ、乳搾りでもするみたいに、強く刺激してあげる。
ん…ああ、すごいわ。こっちの胸も、大きく膨らんじやって…

あら、胸を揉まれて、おちんちんも勃起しているわね

良く見れば、ガマン汁もお漏らしして…そろそろ頃合いかしら

これからキミの知らない快楽を、たっぷり植えつけてあげる

そのお尻をバックから貫いて、アナル処女を散らすのよ

さあ、お尻を高く突きだしなさい

【マリー】

…ん、分かるでしょう？ お尻の窄まりに、亀頭の柔らかな感触が当たって…

んんう…このまま、入れるわよ、んんんう——ッ。

んんッ、凄い…締めつけ。

キミのアナルが、私のおちんちんを激しく感じさせてる…

ん、はあ…アナル処女、なくなっちゃったわねえ…んふふ

このまま直腸の奥まで突いて、感じさせてあげる。

んっ、はあ…んんう、ふう…あ、んく…ああ、どうかしら、

私のデカおちんちんのお味は。

ふふ、少し下品な言葉だったかしら？

でも、今のキミだって、いやらしい恰好をしているわよ

四つん這いになって、私の性器を受け入れてる

それも、お尻の穴からね

んっ、あああっ、んんう…はあ、最高よ、キミのアナルきつい締めつけだけじゃなくて、滑らかな直腸の粘膜が、ペニスに吸いついてくるようで…、んんう、あああ…

んふうう、キミの勃起も、凄いことになってるわね。

お尻の奥、前立腺を突かれるの、そんなに気に入ったの？

ふふ、そうよねえ、こんな快樂…初めてよねえ

お尻の奥を後ろから何度も犯されて…まるで、セックスしてるみたい

んんっ、ああ…んんっ、ふううう…っ

ああ…もっと、キミのアナル、激しく苛めてあげる

たくさん出し入れして、直腸の奥も、入り口も、全部感じさせてあげるわ

【マリー】

ほら、ほらあッ

お尻を突かれるたび、喘ぎ声が大きくなってきてるわよ

男の濁った声じゃなくて、女の子の高い声…

自分でも分かっているんでしょう？ もうキミは、女の子、なのよ

アナルでメスイキして、ちゃんと自覚しなさい

精液の出ない絶頂で、心まで女に染まるの

ん、ああ…んっ、お尻の締め付け、強くなって…ん、あ、おっ…はあ…んっ、んんう

そろそろ…なのね。良いわよ、ん、はあ…いきなさい

私のおちんちんで、お尻を突き上げた無様な恰好のまま、絶頂しなさいッ
ん、あああッ—

んんっ、すご…お尻の穴、ぎゅううって締まって…はあ、いっちゃったわねえ…
今、悲鳴みたいな声、出たわよ。絶頂した女の子の声音。

ほらあ、もっと聞かせなさい？ もっとイキなさい？

お尻の穴をいっぱいかき回されて、二度目の絶頂を迎えるのよ。

ん、ああ……っ、はあ……あーあ、またいった、連続で何回もイっちゃって、プライドも何もあったものじゃないわね。

【マリー】

んん？ もしかして、精液、出したいの？
んふふ、許可してあげる

私の手で擦り上げて、精液も吐き出しなさい

んう…おちんちんシコシコ、シコシコ…

んふふ…もう先走り汁で、おちんちんの先、どろどろね

でも、今のキミは女の子になりかけているの

そんな状態で射精なんかしたら、女の子に近づくのが、早まっちゃうわよ

だって、精液っていう男の証を、外へ捨てちゃうんだもの

このままもっと気持ち良くなって、精液吐き出したら、私の手にあるおちんちん…
もうなくなっちゃうかも

【マリー】

ふふ…怖いかしら？ でも、遅かれ早かれ、キミはもうメスになるさだめなの
それが少し早まるくらい、別にいいわよね

どう抵抗しても無駄なんだし…それとも、ここで止める？

無理よねえ…。手の中のあっついおちんちん、もう限界よね
ここでお預けなんて、絶対に堪えられない
そうでしょう？

おちんちん手コキされて、ひいひいよがっちゃって…

そんなキミには、射精と一緒に、私のザーメンを注いであげる
んっ、あああ……アナルの一番奥まで、私の精液で満たされて

ザーメンの熱さが、じんわり広がっていくの
途方もない快樂よ…

んっ、あああっ、んっ、くう……そろそろ私も…限界ね

キミのきついアナルで、いっちゃうわ…濃いザーメンミルク、一滴残らず出してあげる
全部、受け取りなさい…んっ、あああっ、んあっ、んんう…っ！

【マリー】

ああ…凄い量の射精ね。

私も、キミも…ザーメンお漏らし、まだ止らない。

ん、ああ…お尻の中、温かいでしょう？

私の精液で満たされて…んっ、ああ…気持ち良いわ

ふう…キミの射精も、ようやく収まったわね

でも、そんなに精子を出しちゃったら、

おちんちんも、玉袋も…だんだん小さくなって…

ああ…もう、その時なのね

射精して、勃起したおちんちんが萎んでいく…

でも、ただ小さくなるだけじゃないわ

いつも以上に、どんどん縮んでいって…

股間が次第にすっきりして、

アソコがきゅって締まってくるの、分かるでしょう？

そうしたら、もう最後よ

ペニスが体の奥に裏返しに入って、

二度と、出てこれなくなる

…ああ、いつ見ても、おちんちんが消えて、女の子になる瞬間は堪らないわね
ゾクゾクしちゃう…

聞こえるかしら、おまんこのエッチな音。

キミはもう、女の子になったのよ。

ほら、おちんちんも、玉袋もないわ。

【マリー】

代わりにあるのは、できたばかりのおまんこ。
信じられないでしょう。

でも本当なのよ。

私の指先がお尻の穴じゃないところに、
潜りこんでいるでしょ。

指先が一本、二本って、入っていくわ。

できたばかりなのに、ぐしょぐしょに濡れて、

指先を二本もくわえこんじゃう、この卑猥なおまんこが、
ここに、キミの股の間にできているのよ。

私が指を入れて、教えてあげる。

ほら、股の間がむずむずして、

指先が入っていくのがわかるでしょう。

さっきいっぱい犯してあげたお尻とは違う、別の場所。

キミの雌孔よ

今できたばかりの女の子の初めてが、

誰も犯していない、バージンがここにあるの。

【マリー】

ふふ、体もすっかり女の子ね。

これからはキミのこと、お坊ちゃまじゃなくて、

お嬢さまって、呼ばないといけなくなっちゃったわ、んふふ。

ね、お嬢様

●第四章 トランス完了！乳首舐めとオナニー絶頂！

【マリー】

自分でもどんな姿に変わったか、見てみたいわよね
いいわよ、この目隠し！外してあげる。

さあ、ベッドから降りて、この鏡を見てみなさい。
その目に映っているのが、現実よ。

んふふふ、つぶらな瞳はそのままだけど、
顎の線がほっそりとして、唇は少し色っぽく膨らんでる。

首や肩幅は狭くなって、腰にはくびれができているわね

乳房もほら、しっかりと膨らんで、
男を誘惑する、いやらしい形よね。

私の時とは違って、今の薬は素晴らしい効き目ね。
おちんちんも綺麗になくなって！

もうキミは、可愛い可愛い女の子。
男を誘惑しなくても、肌を露出しているだけで、相手が勝手に発情するような、えっちな
体に生まれ変わったのよ。

！そんなにショックだった？
今は嫌がっていても、次第に慣れていくわ。

【マリー】

ほら、乳房もキミに見えるように、両手でしっかりと揉んであげる。

下から上へ持ち上げるようにして、
揉んであげているのが、わかるわよね。

ん！はあ、私ほどではないけれど、綺麗な乳房ね

形だけじゃなくて、おっぱいの感度も、女の子と同じなのよ

今から正面に回って、確かめてあげる

ん、顔を近づけると、甘いミルクの香りがしてくるわね。

【マリー】

まずは左から…

んっ、ちゅば、ちゅば、ちゅばッ。

はふう、ちゅば、ちゅば、ちゅばッ。

はぁ…キミのおっぱい、美味しいわ。

乳房の根元をぎゅううっと搾りながら、もっと強く…っ

んむう、ちゅば、ちゅば、ちゅばッ。

ちゅば、ちゅば、ちゅばッ。

唾液の音もいっぱい混せて、いやらしく吸ってあげる。

ぢゅるるるッ、ぢゅるるるるッ。

んぢゅるるるッ、ぢゅるるるるッ。

はぁ…次は右の胸ね。

気持ちよかったら、声出していいのよ。

いや、むしろ声を出しなさい。

これは命令。だって、キミが感じてるかどうかわかるか、
私が知りたいもの。

んっ、ちゅば、ちゅば、ちゅばッ。

はふう、ちゅば、ちゅば、ちゅばッ。

はぁ…キミのいやらしい右の胸、もっといっぱい、吸いたてるわね。

ちゅば、ちゅば、ちゅばッ。

ちゅば、ちゅば、ちゅばッ。

唾液も絡めて、もっといやらしく…

ぢゅるるるッ、ぢゅるるるるッ。

ぢゅるるるるッ、ぢゅるるるるッ。

…ふう、やっぱりいい声で鳴くじゃない。

【マリー】

それに、乳首をこんなに立てて、本当にいやらしいわね
今の姿を、キミの家族が知ったらどう思うかしら？

…何よ、太腿をもじもじさせて。

もしかして、興奮して濡れてきちゃったの？

んふふ、そうよねえ…キミ、女の子だもの

感じて来たら、おまんこが濡れて…切なく…なっちゃうわよね
こういう時、どうすれば良いか、分かるでしょう？

そう…指を使って、おまんこを弄るのよ

気持ち良くなりたかったら、まずは自分でしてみなさい

私に頼らなくても、一人でできるわよね

だって、自分の身体なんだから

さ、ベッドに座って…足を広げなさい

私も隣に座って、キミの恥ずかしいオナニー、見てあげる

ん…そうよ、そのまま指を近づけて、おまんこの中に入れるの

大丈夫、怖いのは最初だけよ…まずは優しく、穴の近くを擦ってみなさい

【マリー】

んふふ、そうそう、できるじゃない。

キミの指先が、膣の壁々に艶めかしく絡んで…

はあ、エッチなオナニーの音、聞こえているわ

慣れてきたら、もっと奥まで指を入れて、優しくなぞるのよ
同じ方向じゃなくて、色んな角度から擦るの

そうしたら、自分の気持ち良いところが、分かってくるわ

キミのおまんこは、どこが感じるのかしら

入り口に近いところか、それとも奥…もっと深いところか

上か…下か。横かもしれないわね…。

おまんこの中、指を使って、色々確かめてみるの、楽しいでしょう？

指が擦れるたびに、びくびく身体が震えちゃって…

どう？ 浅いところが良いのか、…もっと、もっと…深いところか…

【マリー】

ふふ…深いところがいいのね

ああ…でも、まだ怖くて、あんまり強く弄れない…もどかしいわねえ？

おまんこ疼いて…苦しいんでしょ

じゃあ、私がオナニー、手伝ってあげる

指…おまんこから抜きなさい

あら…キミの人差し指、愛液でべっとりね…

こんなに発情しちゃって…やらしい子

この感じだと、二本くらい入るかしら…ん

うわ…中はとろとろね

人差し指と中指、二本も奥に入って…

少し窮屈だけど、気持ちいいわよね

ああ…濡れそぼった膣の感触…とってもエッチよ

出たり入ったりして…おまんこ指が擦れて、奥から愛液が溢れてくる

ふふ…もう誤魔化せないわね…おまんこの中、どこを擦ってもヌルヌルよ

キミが感じている証…

おまんこでオナニー、初めてなのに、もっと擦って欲しくなっちゃうでしょ
いつの間にか、怖い気持ちはなくなっていて…

今はもう、おまんこくちゅくちゅすることしか考えられない。

もっと擦って、濡れたおまんこを擦って、オナニーだけをしていたい。
凶星よね。

おちんちんシコシコするよりも、こうして穴の中を刺激した方が、よっぽど気持ち良い。

【マリー】

おちんちんシコシコよりも、おまんこくちゅくちゅよ…ああ、キミが羨ましいわ
良く言うでしょ…女の方が、エッチは気持ち良いって

おまんこの色んなところを擦るたびに、また違った刺激があって…

頭の中がふわふわするような、甘い性感でいっぱいになるの
今のキミみたいに、ね

ふふ…もうおちんちんなんて、必要ないわね

たとえ、今のキミにおちんちんが生えたとしても、一生満足できないわよ
だって、この快楽を…女の子の身体を知ってしまったんだもの

キミはオナニーの快感に負けて、女としての悦びに溺れて、
男だった頃の自分を忘れていくのよ…

んふふ…ふふふ

…ああ、ここね。お腹側の、少し浅いところ…。

このざらざらした箇所が、キミの一番気持ち良いところ。

…いっぱい、苛めてあげる

んふふ…さっきよりも激しく、おまんこくちゅくちゅ…

エッチな声、我慢できないのね

良いわよ…そのまま喘ぎながら、中イキしなさい

初めての癖に、おまんこ弄られて…淫らに絶頂するの

さあ、ほら…おまんこ気持ち良いの、どんどん膨れ上がっていくわよ

ん…私の指、きゅうって締め付けて…可愛いわ

快感に身を任せて、そのままイキなさい…

ん、ああ…締め付け、強くなって…ん、はあ…ん、あ……っ

んんっ、すごい…潮噴いちゃったわね…あああ、身体もおまんこも、びくびく震えて…

はあ…キミのイキ顔、絶頂する時の喘ぎ声…とっても乱れていて、興奮…したわ

だから…また私に、見せてちょうだい？

ふふ、んふふ…ッ、女の子はね、連続でいけちゃうの
男は普通、一度射精したらお終いだけど…今のキミは女の子
何回も絶頂することができて…それに、ここ

小さなおちんちん、クリトリスを優しく擦るとね…ほら、びくってしたでしょ？

女の子の身体は幸せね…クリトリスは、ただ快感を得るためにあるのよ

つまり、エッチ専用の部分なの

ねえ、クリ擦られると気持ち良いんでしょう？ アソコ、どんなふうを感じるの…？

私に教えないさい…ん？ どうしたの、感じすぎちゃって、もう喋れなくなったのかしら
え、止めるわけないでしょ

このままクリを弄りながら、連続でいかせてあげる

そんな情けない声で、何がもう止めて、よ

キミは嘘つきね…ここで止めたら、絶対に満足できないわ
ほら…ね

【マリー】

このまま、我慢できる？

身体も…おまんこも疼いて…頭、おかしくなるかもね

ふふ…何？ ちゃんと言葉に出さないと

おまんこ…どうしてほいいのかしら？

はい、良く言えたわね

私の指で、またイキなさい

そう、淫らな声を上げて、おまんこからもうやらしい水音を響かせて

さあ、いきなさい。女の子らしく、全身びくびく震わせて、手マンで潮を噴くの

ん…早く、もう我慢なんていらないわ

押し寄せる快楽に流されて、キミの女の部分、私に見せなさい。さあ、いけ、いくのよ、
おまんこ絶頂しなさいッ

んっ、ああ…おまんこ震えて、エッチなお汁もこんなに…ん、はあ…

キミのイク姿、とっても良かったわ

ん、ああ…私の指で、あんな可愛い声上げちゃって…ふふ

ねえ見て。私のモノ、こんなに硬くなってしまったわ。

全部、キミのせいよ。最後まで、ちゃんと責任をとって貰わないとね…

●第五章 強制フェラ 処女喪失

【マリー】

言葉の意味、分かるわよね。

私のおちんちんは、キミの処女を欲しがっているのよ。

スカートの上からじゃなく、直接、見せてあげるわん…

どう…？ これが私のおちんちん。

おへそに届いちゃうくらいそり返って、びくびく震えてる…

んふふ…挿入の前に、まずは奉仕してもらおうかしらさっき、キミのオナニーを手伝ってあげたでしょだから、今度はキミの番。

舌を突きだして、私のおちんちんを舐めるのよ。

へえ…顔を背けるのね。

女の快楽を味わっても、おちんちんには抵抗がある…まあ、当たり前よねけれど、キミはもう女の子。外見だけじゃないわ、その心もとくに染まっているのよ信じられないって顔ね。でも、本当よ。

こうやって、顔の前におちんちんを突き出せば……どうかしら？

顔を背けていても、分かるでしょ…私のおちんちんから漂う、この蒸れた匂い鼻の奥にむわっと入って来て、たとえ口で息をしても…無意識のうちに、欲しくなる…ふふ、気付いたようね。キミ、汗…かいているわよ

息も荒くなって…おちんちんの匂い、くんくん嗅いじやっているわね

どう…？ 頭…クラクラしてこない？

くく…堪らないでしょう？ この匂いはね、女を惹きつけるのよ

身体も、心もね。そうして、いつの間にか、だんだん顔が近づいてくる

勃起したおちんちんを、うっとり見つめているうちに、口の端から涎が垂れて…

唇が、徐々に開いてくる。オスの性臭に、胸がドキドキ高鳴って…

いつしか、下の口からも蜜が溢れて…そうになったら、ほら

んんっ、おちんちん、深く咥え込んだじゃったわねえ…

おまんこからおねだり汁をお漏らししながら、淫らにフェラチオなんて…ああ、

堕ちるところまで堕ちたわね、キミも。

んん、そうよ…中々上手いじゃない

キミの口の中、涎で溢れて…ああ、この小さい舌の感触も、気持ち良いわんっ、あ、んんう…この口、性欲処理にはぴったりね

んあっ、ああ…あ、くう…もっと奥まで、入れると…んあっ、はあ…

喉もぎゅうぎゅう締まって、良いわ…んっ、あっ、ああ…

苦しいでしょ？ 目に涙が浮かんで…でもキミ、笑っているわよ？

顔がだらしく蕩けて、おちんちんを奉仕できる悦びに感じ入っているの

もう本物の女の子よ、誇って良いわ…ん、ああ…

これからキミは、その身体で男に奉仕していくの

そういう人生を歩んでいくのよ…ん、あっ、ああ…っく、あっ、んんうっ

キミも気持ち良くなれて、私も気持ち良くなれる。ああ…フェラチオって…最高ね

女を支配している感じがして、んっ、あっ、んく、あっ…

我慢汁まで、吸われてる…んんう

はあ、んっ、あああ…っ、まったく、なんていやらしい口なの…んく、はあ…はあ…こ

のまま射精してしまうのは勿体無いわね

ん、あああ…

精液を注ぐのは、こっちの口が良いわ

キミの素敵なバージン、このふたなりおちんちんで奪ってあげる

【マリー】

さあ、おまんこを私のほうに向けなさい。

ベッドに寝て、太腿をだらしなく開くの。

んふふ…そうよ、良い子ね。

まだ処女なのに。ニスを欲しがって、入り口のひだひだがヒクっている。

愛液もたっぷり垂らして、はしたない…

こんな淫乱に、処女膜は似合わないわ。おちんちんで貫いて、無残に破り捨ててあげる。

……ん、ああ……！

少しずつ、おちんちんが入っていくのがわかるでしょ。

キミの中を犯しているのよ。

ひだひだがいやらしく絡みついてきて、

ああ…っ、

この締めつけは、確かに処女のおまんこよね。

狭くて、ゴムみたいに弾力のある膜が、おちんちんを押し返してくる…ん、あ、くう…
でも、力を込めておちんちんを突き込むと、ふふ、膜が広がってペニスを
受け入れていくわ

このまま、一気に奥まで…ん、

【マリイ】

ああ…ッ、奥まで入っちゃったわね。

キミはふたなりおちんちんに、処女喪失されたのよ。ふふ、素敵な思い出ができたわね。
このまま犯し抜いて、中出ししてあげる。

ん、ほらあ…っ。これが、セックスよ。

中で動いてるの、感じるでしょ。

これが、私のおちんちん。お尻の穴で交尾するよりも、気持ち良いでしょう？

ゴツゴツして、長さもあるのよ…ん、ああ…

ふふ、苦しそうね。お腹の中に、異物が入っているんだもの…

内側から圧迫されて、痛いわよね。

でも、それだけじゃないわ。

身体の内側を擦られているからこそ、直接…快感を得られるのよ

私が腰を突き出すたびに、少しずっ…気持ち良くなっていくわ

性の刺激と…女にしかない快感が湧いて…ん、ああ…

んあっ、あ、ああ…

ほんと、セックスって素敵ね

きつく締め付けられても、痛みなんて感じないし

何より、女を犯しているのが良いわ

自分が上に立ったこの感覚…ああ、腰の動き、止まらない…

んっ、あんっ、んあっ、ああ…

でも、キミだって悦んでいるんでしょ？

女にしか味わえない、犯されている快感…私とは別のものよ

こうやって、強く腰を突き出して、奥まで挿ると…どうかしらっ

深いところ、おちんちん掻き回されて…

何の抵抗もできないまま、一方的に責められるこの感覚

キミみたいな女ってね、マゾな部分があるのよ。

だから、自分が犯されているって思うと、ゾクゾクするでしょ？

おちんちんで突かれる度に、ああ、自分は女の子なんだっていう思いが、

どんどん膨らんでいく

…分かるわよね？ あなたはもう、女の子なのよ

おちんちんを何度も打ち付けられて、心の奥底では悦んでいるのねえそうでしょう？ 可愛い顔して、マゾの変態なのよねえ？

んふふ、愛液溢れてるじゃない。膣の中こんなに濡らして…やっぱり感じていたのねさっきまで処女だった癖に、本当に変態ね、あなた

こんなに淫乱だと、誰のおちんちんでも悦んじゃうんでしょうねん、ほら…ッ、自分を女に変えた、憎い私にさえ欲情しちゃってる節操のないおまんこね…ッ、男を射精させるための穴なんだから、もっと締め付けないと

…んっ、ああ…ッ

んあ、あん、ああ…そう、良い感じよ、はあ…んく、ああ…ッ

気持ち良いわ、おちんちん融けちゃいそう…んっ、くっ、はあ…ッ、あああ…っこのまま激しくして、奥に…射精するわよ

キミも女の悦びを感じながら、はしたなく絶頂しなさいほら、ほらあっ！

気持ち良いんですよ？ 抑えてないで、もっと良い声で鳴くのよ

動物みたいに本能のまま、快感で身体が震えるように、感じて愛液が滲むように、感情に従って声を上げるの

そう、そう、よお…んあっ、んく、あああっ、はあ…ッ

とってもいやらしくて、可愛い声ね…

んっ…さあ、受け取りなさい…っ

濃厚なザーメン、おまんこの奥に、たっぷり吐き出してあげる

ん、ああ…キミはおちんちんにいかされて、その心まで私に穢されるのよんっふふ、楽しみねえ…んっ、ああっ、あっあっ、んく、あああ…！

おまんこ気持ち良い…いく、いっちゃうわ…っ、中出し未経験のおまんこに、今から射精するのよ…んっ、あっ、んあっ、ああ…あーッ、いく、いくいくいく…ッ、んあっ！

【マリー】

ああああっ、はあっ、あああ…っ！

射精、してるわよ…っ、精液まだ出て…んっ、ああ…ふふ

膣の奥も、子宮も…私の体液でいっぱいね。こんなに出しちゃったら…

キミ…ふたなりザーメンで、妊娠しちゃうかも。ふふ。

処女膜を失って、濃厚な精液も種付けされて…散々ね。

今のキミは、お嬢様でも、ましてやお坊ちゃまでもないの。ただの性奴隷よ。もう、そこまで墜ちちゃったの。

キミの身体に鎖はないけど、一生…自由には生きていけない。おちんちんの快樂…憶えちゃったもの

これからの人生、私がたくさん…擦り切れるまで使ってあげるわね
ふふ…まずは、その身体を綺麗にして…

キミに似合う、可愛い服をあげるわ

だって今日は…可愛いキミの、生まれた日。生まれ変わった、記念の日。

…まだ言っていなかったわね。…お誕生日、おめでとう

【マリー】

私からのプレゼント…有難く受け取りなさい

ふふ…んふふふ…。

(END)